

市政を問う

一般質問

12月定例会における市政に関する一般質問は、12月1日、2日に行われ、9人の議員が質問に立ちました。各議員の質問と市長を始めとする当局の答弁要旨は次のとおりです。

(質問議員が執筆し、掲載順序は質問順です)

※質問、答弁の詳細は3月1日頃から半田図書館・亀崎図書館等に設置された会議録でご覧いただけます。また、市議会ホームページにも掲載します。
※その他、議員ごとにYouTubeへ直接アクセスできるQRコードを掲載しています。



公明党 坂井美穂

子宮頸がんから命を守るための情報提供

問 ワクチンの定期接種対象者と保護者に対して、個別の情報提供を行うべきと考えますが、いかがですか。

答 高校1年生相当の対象者の保護者に対し、個別にパンフレットを送ります。小学6年生から中学3年生には、学年だより等で連絡します。仮に1回ご案内したものがそのまま読み流されてしまっても、次なる手段で周知がされるような情報提供の方法を考えていきます。

がん検診受診率の向上と早期治療・重症化予防の取組み

問 40歳以上の方でも正常乳腺が高濃度の方については、超音波検査を併用すべきと考えますが、いかがですか。

答 効果を立証するものがないため、現時点では実施する考えはありません。
問 大規模な臨床研究(J-START)について

て、併用群は単独群に比べ感度が高く、がん発見率は併用群が1.5倍高いという有用性が示されていますが、いかがですか。

答 公的な機関で効果的に示された段階で速やかに検討に入ります。

問 乳がんのセルフチェックシートを配布することで、正しいセルフチェックができ、検診の重要性の普及啓発に繋がると思いますが、いかがですか。

答 方法を図解したチラシを作成し、検診無料クーポン券と一緒に郵送することを検討します。

認知症に対する不安のないまちづくり

問 認知症の方が安心して外出できる環境を整えるため、家族に対する必要な支援として、個人賠償責任保険制度を導入すべきと考えますが、市長の見解はいかがですか。

答 実施に向けて制度設計をしていきます。



創造みらい半田 竹内功治

子どもたちに対する予防接種の取組み

問 子宮頸がんは年間約一万二千人が発症し、約二千八百人が死亡する危険な病気です。現在は定期接種の積極的勧奨を中止していますが、対象の小6から高1の女子と保護者が接種の判断を出るように情報提供を進めるべきでないですか。

答 高1の女子は個別にパンフレットを郵送しました。今後、小6から中3の女子は学校を通じて情報提供を行います。

問 今後、さらに感染者数の増加が予測されています。半田市として積極的勧奨の中止を解く考えはありませんか。

答 現在は予防接種の判断が出来るように情報提供の充実に努めます。

問 男性を介して発症する女性も多いです。同年代の男性に対して情報提供を考えていますか。

答 現在のところ考えていません。

問 おたふくかぜは5年周期で流行し多い年で約13万人が感染している

答 予防接種の事業は市の負担が多く、現在は費用助成を考えていません。

問 愛知県内54市町村中18市町村が、おたふくかぜワクチンの予防接種の費用助成を行っています。費用助成をしている自治体によると予防接種の副作用は少なく、症状の重症化を防いでいるとのこと。半田市も予防接種の費用助成を行うべきでないですか。

答 現在、国で定期接種に向けた議論が進んでいます。半田市として国の動向を注視し、何らかの動きがあった際には迅速に対応する考えです。

問 「国立感染症研究所」によると予防接種で家庭の負担軽減だけでなく自治体の医療費削減が見込まれ、費用対効果に優れているとのこと。子どもたちの安心と安全を守ることも考えると費用助成は必要ではないですか。



市政を問う 一般質問 (質問議員が執筆しています)